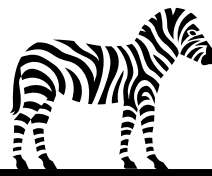


# ポレポレ

## Chance

～踏み出す勇気・支える勇気・信じる勇気～



楽しすぎた長崎修学旅行をプレイバック！生涯の思い出は作れたか！？

### 長崎修学旅行行程

- ◆ 1日目  
西紀中学校発→JR新神戸→博多駅→長崎原爆資料館→長崎平和公園→長崎ホテル異邦館
- ◆ 2日目  
長崎ホテル異邦館→長崎市内班別自主研修→松ヶ枝駐車場→ハウステンボス班別自主研修→the paradise garden SASEBO
- ◆ 3日目  
the paradise garden SASEBO→十九島パールシーリゾート→博多駅→新神戸駅→西紀中学校着

### 西紀中学校

早朝より中学校に集合した皆さんは、いつもより少しテンションが高い。学年にとって、初めての本格的な校外学習に胸が高鳴っているのが分かる。GW前からコロナによる修学旅行中止の可能性は低いと予想され、あとは自身の体調のみが心配されたが、さすがだ。当日は体調をバッチリ整え、修学旅行に参加することができた。出発式、修学旅行実行委員長のあいさつで、いよいよ我々の修学旅行が

始まった。ポレポレ筆者からは目的の一つでもある、「生涯の思い出を作る」、この一点のみ話をさせていただいた。修学旅行を終えた今、みなさんは生涯の思い出を作ることができただろうか。今一度、振り返りながら、本学級通信を一読いただきたい。



### 西紀中学校→長崎

3Aにとって、初めてのバス移動に、初めての新幹線移動で、いつになくやかましく、いつになく元気だった。博多についても、駅近くのビルを見て、ワーワー騒ぐ。ポレポレ筆者はそんなことよりも行程通り進むのかどうか、どこで集合して、どんな指示を次に出せば良いのか、頭の中はパニック状態だった。そのため、「先生！ビルの上に植物が生えてます！」という素っ頓狂なEさんの言葉に、「おお、ホンマやなー」と気のない返事しかできなかった。

## 5/17(Tue) vol. 6

楽しかった、いや、楽しすぎた修学旅行のポレポレ筆者による振り返りです。いろいろな人から「行けてよかったね」と温かい言葉をいただきました。本当にありがとうございます。発行責任者：井上敏昭  
文責：山田啓人



### バスガイドゴンちゃんとの出会い

博多についてから、バスガイドをしてくれた、権藤さんことゴンちゃん。九州弁を巧みに使いこなし、ポレポレ筆者の心をわし掴みにする。「どやったと？」グッ！「何しよう？」グッ！そして、時々聞える、毒舌に爆笑。「路面電車の乗り心地はねー。悪い。悪いよー。ガタガタするし。」そう言われると逆に楽しみになる路面電車。また、長崎の人の皿うどんの食べ方も教えていただいた。「長崎の人はね、皿うどんにソースをかけるんよ。あの、雅治もね♪（長崎出身の福山雅治のこと）」



### 被爆体験者による平和の講話

原子爆弾に被爆された方の話を聞いた。やはり、体験者の話は、その経験に裏打ちされた言葉の重みがあり、読者のみなさんは真剣に体験者の話に耳を傾けていた。原爆投下の当時の様子が私たちにも鮮明に分かるように教えていただいた。

### 平和セレモニー

2年生の頃から学習してきた平和学習の集大成である平和セレモニー。5月上旬ではあるが、長崎はとても暑く、おでこに汗が滲んだ。そんな状況ではあったが、皆さんは折り鶴の塔の前で、平和への願いを込め、平和宣言の唱和を行った。平和への願いが込められた、とても良い宣言文であった。また機会があったら、このしおりを見て、中学3年の時の自分はこんなことを考えていたのかと、思い出してほしい。



## Today's Words

思い出に浸る暇もないってぐらいの思い出を作りたい！

歌手  
野田 洋次郎

## 長崎ホテル異邦館

1泊目の宿、長崎ホテル異邦館に着くと、すぐにご飯だった。「1泊目のホテルでは、たぶん長崎名物の皿うどんとかそういうのが出ると思うよ！」とゴンちゃんに教えてもらっていた。ゴンちゃんの予想通り、夜は皿うどんだった。マジメな読者の皆さんは、「皿うどんにソースをかけるのが、長崎スタンダードだ！」と思い込み、テーブルの上にある黒い液体に手を伸ばす。残念ながら、ホテルはソースの用意をしておらず、その黒い液体は青じそドレッシングだった。皿うどんに青じそドレッシングをぶっかけたのは、一人ではなく、複数人いたという。長崎県の人皿うどんに、いろいろなものをかけて食べるらしいが、さすがに青じそドレッシングをかける人はいなさそうだ。また、この夜の食事はものすごい量だった。少食のポレポレ筆者は、半分と少し食べた程度で残してしまった。ちなみに両隣にいた、校長先生と北村先生は完食。校長先生は完食したあと、お腹をポンポン叩きながら、机間巡視していた。



## レクレーション

ついにレクレーションが始まった。今回のレクレーションの目玉は、オープニングでの漫才と一発ギャグだ。あの大人しいクラスからそんなことをしよう、と、名乗りを上げる人が出るなんて、「成長したなー」とつくづく思っていた。しかし、やはり関西人として、面白くない漫才と一発ギャグなら知らんぷりしようと思っていたが、二つともなかなかのクオリティだった。思わず笑ってしまうボケがいくつもあった。ではまたいつか、機会を見つけて、漫才、一発ギャグをしてください。楽しみにしている。

さて、その後のレクレーションは「イントロクイズ」と「〇〇を食べているのは誰だ！」（複数人が前に出て、同じ物を食べるが、一人だけ違う物を食べる。その一人が誰かを当てるゲーム）だった。イントロクイズでは、世代間ギャップを感じ、「〇〇を食べているのは誰だ！」では、みなさんの演技力が高すぎて、全然正解することができなかった。



## 長崎市内班別自主研修

2日目、班別自主研修がスタート。毎年、修学旅行の班別自主研修では、なぜかみんな、サングラスを買い、まるでハエ（トンボ？）のようになってしまう。



8:30から歩き続けることで体調不良者が出ることを予想していたが、私たちの心配をよそに、読者の皆さんはすこぶる元気だった。読者の皆さんが、長崎市内の各地を観光している間、ポレポレ筆者はチェックポイントでの立番と、スタバで小休止、あとは中華街で、同じく修学旅行に来ていた東京の中学生による、長崎くんちを見た。その後は、北村先生と一緒になぜかカレーライスを食べ、最終ゴール地点のオランダ物産館に到着。その後、グラバー園を見た。やはり、グラバー園から見た長崎は、とても綺麗だった。



## ハウステンボス班別自主研修

ハウステンボスでの班別自主研修がスタート。長崎市内で仮装した3A諸君の衣装は、ハウステンボスでバージョンアップ。ある者は頭の上に耳付きのカチューシャを、ある者は熊のかぶり物を、ある者は顔の周りがお花畑になっていた。おそらく頭の中もお花畑であっただろう。そんな中、「〇〇くんの水筒がありません！VRエリアかもしれません！！」と言われれば、VRエリアへ。「〇〇さんが体調不良です！！」と言われれば現場へ駆けつけ。ハウステンボス内を駆けずり回った北村先生。結局水筒は、バスの中から出てきました。お疲れ様です。「いやー、ハウステンボスは家族と来て、何日かかけて、回るのがいいかもしれないなー」と仰っていた北村先生。是非、今度はご家族で楽しんでください。読者の皆さんは、夕方から夜にかけてのハウステンボスを満喫したことと思う。夜のイルミネーションを見て、ロマンチックな気持ちになっただろうか？いつもは時間をきっちり守るみなさんも、時間が足りなかったのか、バス乗車完了時間ギリギリまで、観光や買い物を楽しんでいた。



## マリン体験

最終日のマリン体験。朝からあいにくの雨。天気予報では、マリン体験が始まる時間には曇りの予報だった。雨は降っていたが、バス乗車中、添乗員さんに電話が入り、マリン体験は決行と、パールシーリゾートさんから連絡が入った。体験ができることにひとまず安堵したが、この雨模様で本当に大丈夫なのだろうか、少し心配していた。現地についても雨は止むことはなかったが、マリン体験の開校式が終わった頃には、雨は止んでいた。思い返せば、2日目の班別研修では、長崎市内からハウステンボスへ移動する時、バスでの移動中は雨だった。しかし、ハウステンボスに着いたら、雨は止んでいた。修学旅行1週間前の週間天気予報でも、最終日は雨だったが、曇りに変わった。修学旅行の予定は9・10・11日だったが、それが1日でもずれていたら、雨だった。修学旅行の3日間は本当に天候に恵まれた3日間だった。それもこれも全て、自称晴れ男の校長先生のお陰である。修学旅行に行く前に、校長先生はこう仰っていた。「ワシが行ったら、晴れる」本当にその通りになった。ありがとうございます。 ※本当はヨットセーリングのことをかきたいが、乗船していないので分からないので書けない……。シーカヤックは皆さん楽しそうにしていました。



## 修学旅行を終えて

修学旅行の3日間が無事終わった。みなさんは生涯の思い出といえる3日間となっただろうか。修学旅行の解散式でも話した通り、この3日間はポレポレ筆者にとっても生涯の思い出になったことは言うまでもない。特にこの学年は、同じクラス、同じメンバーを3年間も担任をしているので、思入れ深いものがある。この修学旅行では、みなさんの成長した姿をたくさん見ることができた。友だちが体調不良となれば、ダッシュで教師を呼びに来てくれたり、友だちのちょっとした要求をスッと受け入れてくれたり、友だちとご飯を一緒に食べるために、調子が良くなるのを待ってくれたり、本当に優しさ溢れる君たちの姿を、たくさん見ることができた。こういうことは普段からの生活の積み重ねがあるから、できることだと思う。本当にすばらしい。そのまま真っ直ぐに成長していくみなさんであってほしい。

また、今回の修学旅行を、みんなが気持ちよく過ごせるように、ルール作りや部屋割り決めなど、いろいろなところで動いてくれた実行委員のみなさんに感謝を伝えたい。ありがとう！



平和をつなぐ  
笑顔をつなぐ  
青春story  
～Let's smile～

2022

5.9<sub>Mon</sub>-11<sub>Tue</sub>

in Nagasaki and Sasebo

